



YMCA News



2024年3月1日発行
公益財団法人とちぎYMCA
〒320-0041
宇都宮市松原2-7-42
Tel 028-624-2546
Fax 028-624-2489
www.tochigyymca.org
発行人 / 塩澤 達俊
編集人 / 公益財団法人とちぎYMCA



大切にしたい出会い なりたい自分と私

表紙の写真から：とちぎYMCA スプリングプログラムにて。子どもたちがリーダーと手を繋いで、自然の中を探索しています。

リーダー OG となり幼稚園の先生として働き始めてから4年が経とうとしています。そんな今、とちぎYMCAのリーダー「ふっか」として過ごした時間を振り返ると、子どもたちやリーダーたちなどたくさんのお会いがあったことを思い出します。

子どもが好きで何か子どもたちと一緒にできることを探していた大学1年生の夏、私はとちぎYMCAと出会いました。「子どもたちとキャンプにいける?!なんて楽しそうなの!」そんな思いで足を踏み入れた初めてのキャンプは2泊3日の尾瀬大冒険キャンプでした。グループのメンバーが揃い自己紹介をしたときの子どもたちの緊張している表情、そして私のドキドキした心を今でも鮮明に思い出すことができます。始めは「ふっかせんせい」と呼ばれていたけれど、川遊びに野外炊飯にキャンプファイヤーにいろんなことを一緒に過ごす中で少しずつ距離が近づき「ねえ!ふっかー!」と呼んでもらったことがとても嬉しかったです。たった数日間の出会いでしたが、グループの中での関係性の深まりや友だちというよりも共に過ごした仲間といったほうがしっくりくるような特別な関係性に魅力を感じました。また、キャンプでしか体験できないような非日常的な活動にキラキラと目を輝かせていた子どもたちの表情が忘れられず、どんどんYMCAの活動に夢中になっていきました。リーダーたちと子どもたちの楽しむ姿を思い浮かべながら準備をした時間や、活動のこと子どもたちのこといろんな話を遅くまでしていたことも楽しい思い出です。

多くの出会いがあった4年間でしたが、私にとって一番大きな出会いは私自身が「ふっか」というもう一人の自分に出会えたことだと感じています。私の性格は、ちょっと慎重なところがあります。こんなこと楽しそうって思いついても色々などを心配してなかなか実行に移れないことが多いのです。でも、私はふっかになるとちょっとだけ一歩踏み出す足が軽くなり、チャレンジする勇気ももらえました。「リーダーにも色々

なタイプがいるけどふっかは演じるタイプだね。」お世話になったスタッフから言われたことがありました。そのときは自分でもよくわかっていなかったのですが、私はこれまでなりたかったけれどなれていなかった自分にふっかというリーダーネームをきっかけになろうとしていたのかもしれないなといまでは思えます。たくさんの時間をふっかとして過ごす中で、挑戦してみることも、やりたいことを思いっきり楽しむことも気負わずにできるようになりました。そして、たとえ失敗してもすぐに前を向いて失敗を笑えるようにもなりました。新しい自分に出会うきっかけをみつけることができたことに感謝しています。

4年間で私は自分の好きなところや自分らしさをたくさんみつけることができました。さらに、「今しかできない体験をしてほしい。色々な人がいること、みんな違うから面白いことを知ってほしい。一人ひとりいいところがあってありのままの自分でいいことに気づいて欲しい。みんなで何かをするって楽しいって感じてほしい。」私はたくさん子どもたちや活動に出会う中で子どもたちに願うこと、これから自分がやっていきたいこともみつけることができました。今もこの思いを大切に子どもたちと毎日を過ごしています。出会いと別れの季節がもうすぐやってきます。これからどんな出会いがあるのでしょうか。変わってしまうことへの不安も新しいことへのわくわくした気持ちも楽しんでいきたいですね。皆様お一人おひとりにとって、素敵な出会いがあることを祈っています。

とちぎYMCA コースボランティアリーダー OG
神原 響(ふっかリーダー)

とちぎYMCAの使命。 ~みつかる。つながる。よくなっていく。~

2023年度とちぎYMCA年間聖句

主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ。」(イザヤ書 40 章 31 節)

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」(マタイによる福音書 11 章 28 節)



認定こども園 さくらんぼ幼稚園

「年長組のみなさんへ」

もうすぐ卒園の日が近づいていますね。さくらんぼ幼稚園での毎日は楽しかったですか?たくさんの思い出はできましたか?先生たちはみんなとの楽しい思い出がいっぱいです。たくさん思い出をありがとう。これから始まる小学校生活もさくらんぼ幼稚園と同じように先生やお友だちと楽しい思い出が作れる場所でありますように、応援しています。

みんなと過ごした時間は先生たちの宝物です。「いっしょにあそぼう」と、微笑んでくれる笑顔からどれだけの幸せをもらえたことでしょうか。「せんせいこっちにきて」と、そっと繋いだ手の温もりからどれだけの元気をもらえたことでしょうか。ずっとずっと一緒にいたいけれど笑顔で見送ります。みんなの幸せを祈って、輝かしい未来を信じて。ご卒園おめでとうございます。

本澤 利香



ようとう保育園

「就学に向けて(さくら組年長児)」



就学に向けた生活リズムを整えるため、1月から午睡(お昼寝)をしなくなりました。活動時間が長くなったことで、一つひとつのことにじっくり向き合え充実した時間を過ごしています。「みんな寝ているから、静かにしなくちゃね。」と確認し合いつつも、元気いっぱい園庭に飛び出していき姿は、最年長の特別感もあってとっても嬉しそう。

小さい子がいる時は危ないから...と控えるドッジボールを思いっきり楽しんだり、リレーや鬼ごっこなどで体を動かしたりしています。室内では、三つ編みの縄跳び作りに挑戦中。30cmの練習用布で「右、左、右...」と編み方を覚えるところから始め、本番用布はなんと3.6m。とても根気のいる作業ですが、編み間違えたら何度でも解いてやり直し、納得のいく仕上がりになるまで繰り返すので、愛着も一入のようです。「無理だ...できない。」と呟いた友だちに対し、「運動あそびも最初はそうだったでしょ?諦めないで練習したから、発表会で成功したんでしょ!」と励ます姿も見られました。互いの頑張りを認め合う素敵な友情と、自己効力感の高まりが感じられ、成長を嬉しく思いながら見守っています。卒園まであと1ヶ月、充実感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせていく力が育つように、一人ひとりに寄り添って生活していきたいと思っています。

5歳児担当保育士 石田 佳菜



宇都宮市青少年活動センター(トライ東)

「卒業するユーススタッフにインタビュー」

トライ東には、ユーススタッフ(学生アルバイト)がおり、日々の施設運営を始め、イベント企画や、Youtube、InstagramなどのSNSでの発信、他にも様々なことに挑戦しています。さて、今年度大学を卒業し、新しい道へと歩みを進める「堀江杏奈さん」(あんぬリーダー)にインタビューを致しました。



写真右が堀江さん。4月からは小学校教諭として働きます。

Q 印象に残っているイベントはなんですか?

A、「企画の立案をさせていただいた、『世界中の鬼ごっこを体験してみよう!』の主催事業が印象に残っています。イベント内容を一から考えることの難しさを感じるとともに、子どもたちの笑顔のために頑張る業務のやりがいを見いだすことができました。」



Q アルバイト経験を通して身につけたこと、また今後の社会生活に役立てたいことはなんですか?

A、「視野が広がったと思います。通常業務(受付、電話対応等)やイベント時に、自分から動くよう心がけたことで、周りを見る力を身につけることができました。今後、社会に出たときにも周りを見て行動し、自分にできることを一つひとつ行っていきたいと思っています。」

Q 最後に今まで堀江さんが関わった、トライ東利用者の皆さま、とちぎYMCAの皆さまへ一言お願いします。

A、「トライ東利用者の皆さま、いつもご利用いただきありがとうございます。ふとしたときに話しかけてくださったり、優しい配慮をしてくださったりと、利用者の皆さまのおかげで楽しく働くことができました。また、私は幼少時代をさくらんぼ幼稚園で過ごしました。さくらんぼ幼稚園の卒園生として、このような形で再びYMCAに戻ることができ、とても嬉しかったです。トライ東のユーススタッフとして、経験したことを今後の社会生活に活かしていきたいと思っています。大変お世話になりました。」

是非、トライ東でのアルバイトの経験をこれからの社会生活に役立てていただければと思います。

知ってみよう! フードドライブについて



1月から2月にかけてフードバンクへの寄付を募るフードドライブ活動を行いました。とちぎYMCA各所で多くの方たちから食品の寄付を受け、フードバンクうつのみやに届けることができました。ご協力を有難うございました!

フードバンクでは、集まった食品を一つひとつチェックし日付を貼り棚に整理して並べます。しかし、次々と来訪する人たちに提供され、棚はすぐに寂しくなってしまいます。来所する人たちには、一人ひとり話を聞き、必要な支援を事情に応じて講じていく(医療、地域、仕事、教育等)ことをしています。

以下は、フードバンクうつのみやのホームページからの抜粋です。

くフードバンクには様々な方が訪れます。病気や障害で働けない、失業後なかなか仕事が見つからない、人とうまくコミュニケーションが取れず仕事が長続きしない、DVで離婚し生活苦、生活が大変で年金を納めることができなかつたので無年金・低年金、ひとり親で食べ盛りの子を抱え自分は我慢している・・・など。

どれも自分たちの力だけでは立ち上がることが難しいですが、中でも理解が進んでいないように感じるものに依存症があります。

～中略～

相談活動を行っている、自身や家族がアルコールや薬物、ギャンブルの依存症であると打ち明けられることがあります。

～中略～

こういう相談者には、勉強会やイベントを行い、家族会も依存症で区切らない形で開催したりと、立ち上がるきっかけ作りもしています。)

このような事情を知るとフードバンクがいかに大切かお分かりいただけますね。では、YMCA以外の場所でのフードドライブ活動を紹介します!!

- ・フードバンクに寄付：県内にある12団体
 - ・きずなBOX(食品回収ボックス)への寄付：宇都宮など29か所に設置
 - ・フードドライブの呼びかけのあるイベントに参加(フードバンクうつのみやのHP参照)
- 今後も、支えあう社会を作れるよう協力を宜しくお願いします!

未来の地球とわたしたちにできること



「未来の地球とわたしたちのためにできること」持続可能な世界を作るためのSDGsワークショップ

2024年1月21日(日)「未来の地球とわたしたちのためにできること」というタイトルで、持続可能な世界を作るためのSDGsワークショップが行われました。お子様連れで参加して下さる方も多くおり、約25名が集まりました。

前半は持っているお金や時間を使って自分のゴールを一生懸命目指している姿が特に目立ちました。「お金がいちばん大事!」というゴールを目指している人たちは、どんどんお金を増やすことができていました。後半に入る前に講師の流さんから「経済はだいぶ潤っていますが、環境や社会がもう少しよくなるといいですね。」とのフィードバックを受けて、だんだんと全体を意識する方が増えたり、他のテーブルの人たちとの交渉がより活発になったり雰囲気が変わりました。

最後は、みんなが経済だけでなく、環境や社会にも目を向け、よりよい世界を目指すようになっていました。お金があっても時間が足りなかったり、お金を増やすことだけを考えるのは簡単だけれども、環境が破壊されてしまったり、現実と同じようなことを疑似体験し、たくさんのことを感じることでできる時間が持てました。

また、流さんから環境や人権に配慮された製品のマークなどをご紹介いただき、改めて身の回りを見渡してみるとすぐにでも取り組めることがあるということに気づかされました。

次回は4月20日(土)に「知ることからはじまる国際協力」ということで難民について理解するワークショップを開催予定です。※4ページ参照。ご参加お待ちしております。



～知ることからはじまる国際協力～ 「私が難民だったら?」「トモダチが難民だったら?」を体験!

世界では紛争や武装勢力による暴力が後を絶ちません。その結果、世界では約 8,000 万人の人々が難民生活を強いられています。「自分が難民になるなんて思ってもみなかった。」南スーダンの難民の女性はそう語りました。「シリアで今起きていること、私たちのことを忘れないでほしい。」と語るシリア難民の少女。私たちと同じ平和な日常を送っていた人々の生活がどのように断ち切れ難民となっているのか「ウクライナにいるのがもし、私だったら」「私の家族だったら」「私の友だちだったら」・・・世界中で支援を必要としている人々の現状を「自分ごと」として考えられる視点と想像力を養えるワークショップです。今回は 65 を超える国・地域で支援を展開し、現在は 14 か国で活動をしている AAR Japan から講師の方をお招きして行います。

【日時】 2024 年 4 月 20 日 (土) 9:30 ~ 12:00
【場所】 さくらんぼ幼稚園体育館 (宇都宮市松原 2-7-42)
【定員】 40 名程度
【参加費】 500 円 *当日お支払いください。

どなたでもご参加いただけます。小学校高学年以上はおひとりで参加可能ですが、小学校低学年以下の方は保護者様同伴でご参加ください。小さなお子様連れの方も参加可能です。

▼お申込みはコチラ!



締め切り: 4月12日(金)

SDGsの実現に向けて



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



講師: 林 早苗氏
難民を助ける会支援事業部主任



英国の大学院で人類学を学ぶ。国際機関での勤務を経て、2010年AARに入職。2012年から1年間ミャンマー事務所駐在。AARを一度離れ、防災系NGO、開発コンサルタント会社や大学での勤務を経験した後、2023年4月にAARに復職。栃木県出身

月刊# (ハッシュタグ)



第33回 #なにそれなにそれ

とちぎYMCA総理事
塩澤 達俊

#モンティ・パイソン#Always Look on the Bright Side of Life#復活祭
3月31日に「イースター」がやってきます。

イースターはクリスマスよりも重要な、イエス様の復活のお祝いです。イエス様の短い生涯は、アレコレあった末に十字架に磔にされて死に至りました。それは悪人同様の扱いの刑罰であるという屈辱に加え、最後に弟子たちにも見捨てられるという悲痛な最期でしたが、驚くことにイエス様はその3日後、「やあ!元気かい!(あなた方に平和があるように!)」の言葉とともに「軽やか」かつ「寛大」に《復活》なされたのです。

イエス様の《死》は、わたしたちが人のために仕えるため、わたしたちの罪の贖いの代価として十字架上で死んでくださったのですが、《復活》は、わたしたちの罪の赦しの体験であり、イエス様がいつでも一緒におられることの証になるので、大変におめでたいということになっています。

わたしがイエス様の《復活》でいちばん素敵だと思う点は、「寛大さ」と「軽やかさ」です。

ですから、わたしはイースターには『ライフ・オブ・ブライアン (1979年)』というモンティ・パイソンの映画を観るのです。



『ライフ・オブ・ブライアン』(Monty Python's Life of Brian)は、モンティ・パイソンによる1979年公開のイギリス映画。内容はグレーム・チャップマンが演じるブライアンの人生を描いており、彼は偶然にもイエス・キリストと同じ時代を生きたという設定になっている。

映画は西暦33年のエルサレムでイエス・キリストと同じ日に例の馬小屋の隣の家で生まれたユダヤ人の青年ブライアンの物語で、アレコレあった彼の人生も最後はゴルゴダの丘で十字架の磔刑に処せられます。

ラストシーンが最高に泣けて、絶望しているブライアンに近くの罪人が「元気出せよ」とエンディング曲「Always Look on the Bright Side of Life」を歌い励まします。すると、ほかの罪人や死んだ罪人でさえも、動けなげに十字架のうえでリズムをとりはじめ、口笛の輪も加わってあたりに大合唱が起こるのです。

♪いつも 人生の明るいところ 目を向けようぜ♪

今でもイギリスではこの曲は葬儀で流したい人気曲で、サッカーチームのマンチェスター・ユナイテッドが試合に負けたときファンが大合唱する曲としても有名です。

復活祭おめでとうございます!

高校生ボランティアグループ「つぼみ」 つぼみ通信 vol.11



2023年度も
沢山のご支援を
ありがとうございました。

新体制のつぼみ、始動!
来年度も頑張ります!

この3月をもって、3年生の先輩方が卒業されます。3年生の引退の日、私は「3年生の皆さんの代を上回るつぼみを創る!」と宣言しました。しかし、いざ代替わりをしてみると、先輩方がされていたことに追いつくことに精一杯で、本当に3年生の凄さを実感しました。3年生の先輩方のような固い友情、意欲など、学んだ事をこれからも大切に活動に励んでいきたいと思えます。

来年度は、また新たな取り組みや挑戦についても考えています。変化を恐れず、YMCAのブランドスローガンでいうならば、先輩方から学んだこと(みつける)を、私たちが活かす(つなげる)。そして私たちが、先輩方、私たちみんなの「つぼみ」をよりよいものとする(よくなっていく)。

チャレンジすることを楽しめる、そんなつぼみにしていきたいです!

宇都宮南高校2年 高野 裕斗(ツクル)